

第67回 ローマ教皇史

・五本山のひとつであるローマ=カトリック教会では、イエスの弟子（ ）の後継者とされたローマ教皇が、その最高位の聖職者とされた。

◆レオ1世（在位 440～461 年）

・フン人の王（ ）を説得し、撤退させることに成功した。

◆（ ）（在位 590～604 年）

・キリスト教の首位権をめぐり、コンスタンティノーブル教会と対立した。
→6世紀、（ ）への布教を、聖像を利用して積極的に行った。

・751年、（ ）家の（ ）が、フランク王国の国王となることを認めた。

→755年、（ ）を寄進されて、ローマ教皇領が成立した。

◆（ ）（在位 795～816 年）

・（ ）年、フランク王国の（ ）に西ローマ皇帝の冠を授け、新たな保護者とした。

◆ヨハネス12世（在位 955～964 年）

・フランク王国が分裂したため、962年、東フランク王国の（ ）に西ローマ皇帝の冠を授け、（ ）が成立した。

◆（ ）（在位 1073～1085 年）

・教会改革運動を行っていたフランスのクリュニー修道院の影響を受けて、（ ）をめぐり神聖ローマ皇帝（ ）と対立した。
→1077年、（ ）によって勝利した。

※教皇権が世俗の皇帝権や王権より高いことを示す事件。

◆（ ）（在位 1088～1099 年）

・11世紀、聖地イェルレサムを支配下に置くイスラーム王朝（ ）がアナトリア半島に侵入し、脅威を受けたビザンツ帝国は救援要請を行った。
→1095年、（ ）で（ ）の結成を呼びかけた。

◆（ ）（在位 1198～1216 年）

・教皇権は絶頂に達し、イギリスやフランスなど各地の国王を次々に破門した。
※「教皇権は（ ）で、皇帝権は（ ）である」
・（ ）を結成させたが、ヴェネツィア商人の誘導で失敗した。
・南フランスのアルビジョワ十字軍を主導した。また、フランチェスコ会を承認した。

◆ () (在位 1294~1303 年)

- ・聖職者への課税をめぐってフランス王 () と対立した。
→1303 年、() によって監禁され憤死した。
※教皇権と世俗の君主との権力関係が逆転したことを示す事件。

◆クレメンス 5 世 (在位 1305~1314 年)

- ・1309 年、フランス王フィリップ 4 世によって、南フランスの () に強制移住させられた。 ※これを「 」という。

- ・1378 年、教皇庁がローマとアヴィニョンに分裂し、() が始まり、1414 年に開催された () まで続いた。

◆アレクサンデル 6 世 (1492~1503 年) ※チェーザレ=ボルジアの父

- ・1493 年、大航海時代の到来により、() と () の植民地分割ラインとして、植民地分界線 (教皇子午線) を設定した。

◆ () (在位 1513~1521 年)

- ・() 家出身の教皇で、() の建築費を集めるため、ドイツで () の発売を許可した。
→1517 年、これを批判する () が「九十五カ条の論題」を発表し、宗教改革が始められた。

◆グレゴリウス 13 世 (在位 1572~1585 年)

- ・1582 年、ずれていた () を改正し、() を採用した。

◆ピウス 7 世 (在位 1800~1823 年)

- ・フランスの第一統領ナポレオンとの間に () を結んで和解した。
・1804 年、ナポレオンの皇帝即位式に出席した。

- ・1870 年、普仏戦争に乗じてイタリア王国が教皇領を占領し、教皇領は消滅した。
・1929 年、イタリアの () 政権と () を結んで和解し、() が成立した。

◆ヨハネ=パウロ 2 世 (在位 1978~2005 年)

- ・ポーランド出身で、ギリシア正教やプロテスタントとの和解に努めた。

◆ベネディクト 16 世 (在位 2005~2013 年)

- ・ドイツ出身のローマ教皇。2010 年に、教皇として初めてイギリスを訪問した。

◆フランシスコ (在位 2013~2021 年現在)

- ・初の南米出身 (アルゼンチン出身) のローマ教皇。イエズス会の出身でもある。